

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター

執筆担当：斎藤登美夫

◆◆◆ No.0803 ◆◆◆

24/08/21

【ドル/円、5日安値 141.68 円で底打ちした可能性は!?】

ドル/円相場は7月3日の161.96円を起点に、8月5日の141.68円まで1ヵ月間で20円強という暴落をたどったものの、その後はやや下げ止まりだ。15日には149.40円まで値を戻す局面も観測されている。果たしてドルはある種の大底を付けたのか否かなど、経験則を基本とした観点から以下で一度レポートしておきたい。

なお、今回のレポートでは取り上げないが、気が付いたら日米政治情勢が大変な事態に陥っていることは周知のとおり。近いうち、一度レポート出来ればと思っている。

◎基本的には依然ドル安方向にリスク高い、年内140円割れも!?

もっとも喫緊のレターは6月26日付けとなるが、そこで筆者は次のように指摘していた。一ドル/円について言えば、既報しているように筆者は「4月にも年間高値を付ける」可能性を指摘。そして、「年末に掛けて下落し、遅くとも来春までにはボトムを打つ」と考えているのだが、現在までのところ、ドル安・円高へと流れが反転する気配をまったく感じられない。(後略)

結果的には、先のレポートから1週間程度でドル/円は161.96円というピークを付けることになるのだが、それは神のみぞ知るところ。レポート時には、そんなことはまったくわからなかった。いずれにしても、何故筆者が「早ければ4月にも年高値を付け、年末に掛け下落する」と考えていたのかというと、今年でいえば1月24日付けでレポートした「ドル安サイクル」の考え方が基本になっている。興味のある方は、ぜひ詳細はバックナンバーを是非とも当たって欲しいが、とにかく前回レポートした際のサイクルなどを下記でいま一度掲載しておく(赤字は今回修正を加えた部分)。

| 長期波動(66ヵ月) | 中期波動(20-25ヵ月) | 短期波動(10-15ヵ月) |
|------------------------|------------------------|------------------------|
| ・16/06/24 98.65(56ヵ月) | ・16/06/24 98.65(10ヵ月) | ・16/06/24 98.65(10ヵ月) |
| ↓ | ↓ | ・17/09/08 107.33(13ヵ月) |
| | ・18/03/26 104.57(20ヵ月) | ・18/03/26 104.57(7ヵ月) |
| | ↓ | ・19/01/03 104.10(10ヵ月) |
| ・20/03/09 101.19(45ヵ月) | ・20/03/09 101.19(24ヵ月) | ・20/03/09 101.19(14ヵ月) |
| ↓ | | ・21/01/06 102.60(10ヵ月) |
| | | ・21/08/04 108.72(7ヵ月) |
| | ・23/01/16 127.22(34ヵ月) | ・23/01/16 127.22(17ヵ月) |
| | ↓ | ・23/12/28 140.26(12ヵ月) |
| ・2025 年ごろ | | ・24/08/05 141.68(7ヵ月) |
| | | (未確定) |

今回問題提起したのは、短期波動最終段落の赤字部分だ。改めての指摘になるが、高値161.96円を起点に141.68円まで、一本調子近くで20円強という下落幅はかなり強烈。ほかの過去の事象を勘案しても、一年に一度あるかないかといった出来事になることは間違いない。

そうした意味では、141.68円が某かのドルボトムに当たり、示現後足もとなどのドル反発を単なる調整ではなく、「波動底入れ後のトレンド転換の動き」と考えたい向きがあるのはわからなくもない。実際、先で指摘した「短期ドル安サイクル」も、「7ヵ月」という経験則的にみて、もっともサイクルが短縮された場合のギリギリ許容範囲にとどまっていることは非常に興味深いだろう。可能性は確かにゼロではない。

ちなみに、仮に直近安値141.68円が10-15ヵ月という「短期サイクル」の大底であったとするなら、足もとは調整にとどまらず、再びドル高基調へと転換したなかにおける動きということになる。

その場合の上値メドについては、ここで指摘する「サイクル」からはわからないが、過去の経験則などを踏まえると7月高値161.96円を超えていく可能性は決して低くないだろう。もちろん、いまスグといったことではないものの、中長期的には一段のドル高・円安進行を否定できないようだ。

